

精華町視察研修

7月10日（月）、京都府精華町役場へ視察研修を行った。

精華町（人口37,531人）は、京都府の南西端にあり近畿圏のほぼ中心に位置している。学研都市建設が始まった後も、開発と保全の調和がとれた町づくりのもと、既存集落と新市街地それぞれの住民が精華町を愛すること、個性豊かな地域コミュニティが形成されている。

中学校校舎改築事業

精華中学校は、工事が完成する5年前の22年度に耐震化計画を策定し、建て替えか補修かの判断をしている。その2年後の24年度に基本設計を策定し（校舎改築等検討委員会）を設置し、学校関係者を始め、色々な立場の人たちの意見を聴く場を設けている。



精華町役場にて

建て替えるのかどうかを含め、どの様な計画を立てていくのかについては、早い時期から関係者の意見を十分に聴いて話し合うことが重要である。

校舎内を見学した際、生徒が自由に集まれる空間が多くあり、伸び伸びと過ごせ、窓が多く明るい感じがした。

また、一階は地域の人が研修などに使っておられ、地域に根ざした学校という印象を受けた。

施設の特徴は、校舎をコンパクトにまとめることで、生徒の活動スペースを確保できるツイン廊下型の校舎で、照明器具はすべてLEDで、内装等に使用する部材は量産型の資材を積極的に採用し、イニシャルコストの削減を図った施設である。

せいか365プロジェクト

精華町の健康づくりは、「食や運動などの取り組みによる病気の予防」と「生きがい・人と人とのつながりなどの元気増進」の二つを念頭に、個人・地域・行政が協働で実施している企画が「せいか健康づくりプロジェクト」である。

精華町は、健康づくりを主にした「健康・介護予防サポート」を養成し、ボランティアによる住民協働の運営による健康づくりの取り組みが進められている。ひと言でいえる簡単な取り組みが、住民の方々に動いてもらうために行政がどんな考えを持ち、どの様に



副議長から説明を受ける

オロしているのかが、重要な点だと考える。

「住民主体の取り組み」を進めるためには、行政が縁の下で支え、条件づくりを支援することが大切である。

「せいか365プロジェクト」についての町の予算計上はなく、すべて既存に設定された予算を使う。補助率の高いものを活用する」との説明であった。このようなことについても勉強と工夫が必要であると感じた。

敦賀市視察研修

7月26日（水）に、「福井県敦賀市役所」と「越前市中央図書館」の視察研修を行った。

敦賀市の学力向上策

敦賀市における学校教育の現況と課題については、これまでの全国学力・学習状況調査及び市学力調査の結果から、子どもたちの良好な点として、毎日の宿題をやり遂げており、自分の力をできるだけ伸ばしたいと考えていることが明らかになった。

一方で、自分の考えや意見をわかりやすく相手に伝えることが苦手と感じている子どもが多く、話し合い・教え合いをする学習活動を通して、例えば、国語科では「分かったことをまとめ、発表すること」算数・数学科では「筋道を立てて、ものごとを考えること」

に改善すべき課題があることが分かった。

また、コツコツと繰り返し学習することを苦手と感じている傾向があり、家庭・学校教育において「自ら学ぶ力」を育てる必要がある。更には家庭でのテレビ・ゲーム・携帯電話等の一日あたりの利用時間が比較的長く、本や新聞を読む割合が低いことから生活面で改善すべき課題が見られる。

この様な現況に対し、平成16年度からすべての小・中学校に対し学校図書館支援員を配置し、学習センターとしての機能を重視した学校図書館の充実を進めている。また、24年度から課題となる部分の補強教材を開発し、すべての小・中学校の授業に取り入れている。

そして、28年4月には、（学びのつながり）をより明確にした敦賀市「知・徳・体」充実プランを策定し、幼児教育から義務教育で関連する内容を効果的につなぐ教育を進めている。

「敦賀市の方針を各学校に共有させるための対策は」の質問に対し、



敦賀市教育委員会での学力向上について研修

- ①校長会を月一回開き、教育の共有をしている。
- ②教頭会も開いている。
- ③小中一貫カリキュラム（つながり）で小学校と中学校の教育（例えば、つまぎやすい部分をどの様にしていくかなど）を現場の小中の教師と一緒に研究する。
- ④年に二回指導主事が学校訪問を行う。前期（5～7月）に経営方針を立てる。

また、新採用教員は、福井県の方針で出身地以外の学校の勤務となるよう配置されていて、初任者研修を地域別に研究し、グループで模擬授業を行っている。

- 敦賀市では平成19年度から2学期制が導入されている。そのメリットは、
- ①授業日数200日の確保ができる。
 - ②年間通しての学びのつながりが持てる（3学期は短いので止まってしまう）
 - ③長いスパンの中で、つまぎやすさを解消でき成長を助ける。

越前市中央図書館

越前市中央図書館は、武生中央公園に隣接しており、噴水と観覧車もあることから、多くの人が立ち寄るなどの利点があるのではないかと思います。

- ・ 開館時間：9時30分～18時（金曜日9時30分～19時）
- ・ 休館日：毎週月曜日（月曜日が祝日の場合は火曜日）
- ・ 毎月第4木曜日（館内整理日）
- ・ 年末年始（12月29日～1月3日）特別整理休館日で、本町と比べ開館時間が長く、休日も少なかつた。

越前市は、「読書のまち宣言」を行い、この図書館には、越前市にゆかりの資料を集めた「紫式部コーナー」があった。本町のように施設の併設はなく、単独であった。

また、インターネットコーナーがあり、パソコンを自由に持ち込んで使用できるとのことだった。学習支援室では、多くの児童や生徒が学習をしていた。館内での学習は、蔵書に関係なく自由にできるとのことだった。そして、広々な情報提供できる素晴らしい図書館であると感じた。



越前市中央図書館

教育民生常任委員会

- | | |
|------|-------|
| 委員長 | 徳田 文治 |
| 副委員長 | 小杉 和子 |
| | 伊谷 正昭 |
| | 吉岡 美子 |
| | 瀧 すみ江 |
| | 外川 善正 |

今回の研修で多くのことを学んだ。先進地事例などを参考に、本町のまちづくりのために、委員会として研鑽を積んでいきたい。